

私大助成金
学内助成金
大型図書等

申請用資料のご案内

紀伊國屋書店

(日本近代史・明治史、東アジア政治・外交史、東西文化接触)

January, 2021

20 世紀初頭の日本と西洋をグローバルな視点で報道し続けた明治・大正期の英字新聞

ジャパン・ウィークリー・メール

1870~1917 年

The Japan Weekly Mail

1870-1917

監修：横浜開港資料館 発行元：Edition Synapse -JP- 発売元：(株) 紀伊國屋書店

明治 2 年に横浜で創刊後、大正 6 年に *Japan Times* 紙に吸収されるまで、日本の西洋列強入りを支援し、西洋各国との不平等条約の解消など、政治、外交上の影響力を発揮したこの新聞には、外国商社や国内貿易会社を始めとした企業情報や輸出入統計、そしてハーン、サトウ、チェンバレンなど西洋人ジャパノロジストの日本研究や、ヨネ・ノグチのような西洋に向けて日本を発信した作家の英文寄稿も多数掲載され、まさに明治・大正期の日本の対外発信を担ったメディアといえます。



各 Part ごとの収録年代と価格は裏面に掲載しております。

紀伊國屋書店

Part 1, 1870–1874

10 volumes + Index

364x364mm | 4,850pp. | ISBN: 978-4-86166-020-7

標準価格 ¥364,571 (税込)

Part 2, 1875–1879

13 volumes + Index

c. 7,060 pp. | ISBN: 978-4-86166-021-4

標準価格 ¥364,571 (税込)

Part 3, 1880–1884

12 volumes + Index

c. 6,990pp. | ISBN: 978-4-86166-022-1

標準価格 ¥416,952 (税込)

Part 4, 1885–1889

10 volumes + Index

c. 6,300pp. | ISBN: 978-4-86166-023-8

標準価格 ¥416,952 (税込)

Part 5, 1890–1894 **在庫僅少**

14 volumes + Index

c. 7,670pp. | set ISBN: 978-4-86166-024-5

標準価格 ¥416,952 (税込)

Part 6, 1895–1899

13 volumes + Index

c. 7,700pp. | ISBN: 978-4-86166-025-2

標準価格 ¥416,952 (税込)

Part 8, 1904–1906

12 volumes + Index

c. 4,700pp. | ISBN: 978-4-86166-139-6

標準価格 ¥364,571 (税込)

Part 9, 1907–1909

12 volumes + Index

c. 4,950pp. | ISBN: 978-4-86166-140-2

標準価格 ¥364,571 (税込)

Part 10, 1910–1912

12 volumes + Index

c. 4,950pp. | ISBN: 978-4-86166-141-9

標準価格 ¥364,571 (税込)

Part 11, 1913–1917 (- October)

15 volumes + Index

c. 6,700pp. | ISBN: 978-4-86166-142-6

標準価格 ¥446,111 (税込)

* Part 7, 1900–1903 12 volumes + Index は品切れとなっています。

監修にあたって

横浜開港資料館

幕末の安政6(1859)年、国際貿易港として開港された横浜は、外国と日本を結ぶ情報基地ともなり、ジャーナリズム発祥の地となりました。横浜開港資料館では、昭和 56 年(1981)の開館以来、横浜で発行された新聞を収集し、保存・公開してきました。『ジャパン・ウィークリー・メール』もその一つです。

『ジャパン・ウィークリー・メール』は、W. G. ハウエルとH. N. レイが1870(明治3)年1月22日に創刊しました。ほかに、日刊紙の『ジャパン・デイリー・アドヴァタイザー』、海外向け隔週刊の『ジャパン・オーヴァーランド・メール』、海外ニュースを主体とする『ジャパン・メール・エクストラ』も発行しましたが、その中心は週刊版の『ジャパン・ウィークリー・メール』でした。やがて先行の『ジャパン・ヘラルド』、『ジャパン・ガゼット』と並ぶ横浜の三大英字紙となります。他の二紙と違って、すべてのナンバーが現存するところにも資料的な価値が見出せます。

同紙は、対日貿易に関するイギリス領事報告を掲載すると共に、日本アジア協会創立以来、そこで発表された論文を掲載し、邦字紙の論説の翻訳紹介も行っています。外国人居留地の情報や、横浜港に出入港する船とその乗客のリストからは、来日した外国人の動向のみならず、海外に渡航した日本人に関する情報も得られます。

おおむね日本に好意的な論調を続け、1873年から1875年まで、日本政府の意を受けて、日本の情勢を紹介するための海外版を欧米各国に配布しています。明治14(1881)年には経営権がF. ブリンクリーの手に移りますが、その後も親日派の英字新聞として異彩を放ちました。大正6(1917)年に一旦休刊、翌年『ジャパン・タイムズ』に吸収・合併されます。